

ILSI Japan 活動報告<87>

【部会・分科会活動報告】 2021年1,2月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗なし <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NITE-ILSI Japan 連携に基づく第2回勉強会テーマを決定 勉強会テーマ：MALDI-TOF MS の日常的な「メンテナンス」 <p>(3) チルド勉強会 耐熱性試験法活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・打合わせにて試験内容の合意 (1/14、Web 開催、11 社参加) ・2月より上記内容に基づき検証試験を開始 ボツリヌス菌 ・打合わせにて試験概要合意 (1/12・2/3、いずれも Web 開催、5 社参加) <p>(4) 国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進捗なし
	食品リスク研究部会	<ul style="list-style-type: none"> ・2021 年度第 1 回目の部会を開催 (2021 年 1 月 20 日 Web 会議)。各活動の進捗とともに、本年の活動計画・予算について報告。また、部会長、副部会長、補佐の任期が本年 3 月のため、部会長、副部会長を選出、承認を得た。なお、補佐については新部会長が 4 月までに決定する。 ・「高齢者を対象とした食品の安全性評価の考え方、方法論の調査」の初案について、昨年 12 月に部会メンバーの意見、1 月に中江先生のアドバイスを受けて修正を行い、2 月に提出。本年 5 月発行のイルシー誌 (146 号) に掲載予定。 ・「"A Natural Mistake: Why natural, organic, and botanical products are not as safe as you think" (Dr. Jim MacGregor 著)」の翻訳案について、2 月に部会メンバーに確認・意見募集を行い、それを踏まえて修正中。最終案について監訳者の林先生、森田先生の確認後、著者にレビューを依頼し、最終版とする。本年 4~5 月に POD、e-book にて出版予定。
	香料研究部会	特に進捗なし。
A A T プ ロ ジ ェ ク	全体進捗	<p>① 国際 WS とシンポの同時開催と情報発信および ② 3 つの研究テーマ推進による評価戦略の構築と実装、を両輪とする活動を国立医薬品食品衛生研究所、AI-SHIPS、NITE 等の多数のアカデミアや学会およびアジアや EU の ILSI 支部と連携しながら進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバー会議を開催、国際 WS のパネルディスカッションにむけて海外演者と事前議論を行う会議体の設置に関して、日本側の提案を確定した。3 月に ILSI Europe に本会議体について提案し、合意を得て進める予定。

ト	2020 国際ワークショップ&シンポジウム WG (ILSI Europe 協働)	<p>【概要】食品領域における動物実験代替について、現状の把握と進むべき方向性を議論することを目的として国際 WS を限定公開 (AAT 関連メンバー等) にて、さらに国際シンポ (公開) を同会場で開催する。なお、延期した開催時期は 2021/10/21~22、会場は KFC ホール両国とした。</p> <p>【進捗】WG 定例会議を 1/13 と 2/9 に、WS Panel Discussion の進め方及び WS-Statement 具体化について海外演者との事前議論を行う会議体の設置に関する ILSI Europe との打ち合わせ (3/8 予定) に向けた事前会議を、2/19 に開催した。事前会議にて、国立医薬品食品衛生研究所 小島 (肇) 先生と議論し、会議体設置を正式に提案すること並びに会議体の目的、名称、参加メンバー及び日程・ロードマップを確認し、ILSI Europe に提案することとした。北米 (US) からの演者は FDA 及びジョンズ・ホプキンス大学からの各 1 名に決定した。</p>
	体内暴露予測 WG	<p>【概要】動物を用いないで機能性食品の摂取量を推定するためには動態の予測法開発が必須である。現在、主に、昭和薬科大学 山崎研究室の動態予測 (<i>in silico</i>) モデルの適用性を検討。<i>in silico</i> に加え、腸管膜透過に関して <i>in vitro</i> 試験を組み込んだ評価フロー案を構築した。2021 年は、① 山崎研究室の動態予測 (<i>in silico</i>) モデルの効果的活用と信頼性向上、② 予測性向上に向けた新規ツール活用、③ ケースレポート作成支援、を軸に活動する。</p> <p>【進捗】① 2021 年の優先課題 (食品成分に特徴的な難水溶性物質の精度向上、腸管膜透過性の <i>in silico</i> 予測) を設定した。また、機能性を有する難水溶性成分をリスト化した。② 2021 年の主な方針として、新規ツールの情報を収集し、既存技術に対する優位性や課題を整理することとした。第 1 弾として、市販 iPS 腸管上皮細胞に関するツールの特長や課題の聴取を行った。</p>
	データベース WG	<p>【概要】食品成分の既存毒性情報 (文献等) を収集、活用し、反復投与毒性を予測する手法、システムを開発中。独自に毒性情報を収集することも検討する。</p> <p>【進捗】2021 年に登録実施予定の 150 化合物について、選定基準の検討を実施中。昨年ケミカルスペースにて区画分けした食品成分のうち、未登録区画の成分、新たに登録された機能性関与成分、既知自然毒性物質を候補に検討中。また、2020 年までの成果を「幹細胞を用いた化学物質リスク情報共有化コンソーシアム 2021 年度年会」にて発表予定であり、準備を実施。</p>
	ケースレポート WG	<p>【概要】NAMs を用いた食品成分の安全性評価戦略の具体化と実装の加速を目的に、体内暴露予測 WG とデータベース WG の活動を起点に、<i>in vitro</i> assay 系を加えたリスク評価戦略の具体事例を作成し、ケースレポートとして発信する。第 1 弾のケーススタディは「肝障害」をテーマに選定。</p> <p>【進捗】PubMed および食品成分に関する複数の DB から、肝障害の報告のある食品成分 43 成分を抽出。さらに動物及びヒトに対して、肝細胞壊死等の明確な肝障害のある物質として、3 成分を評価対象成分候補に絞り込んだ。<i>In silico</i> ツール・体内動態評価フロー・<i>in vitro</i> 試験を活用したリスク評価戦略における、候補成分の検討課題を整理した。</p>
バイオテクノロジー研究会		特に進捗なし。

栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>1. 2021年度 第1回目の部会をWeb (Zoom) で開催 (1月18日、10:00~12:00) し、本年度から開始するWeb 勉強会 (テーマ: 「栄養・運動と免疫機能」) について打合せを実施した。</p> <p>① 3月12日 (金曜日、13:00~15:00) 開催予定の第1回目のWeb 勉強会の運営方法、司会進行・「イルシー」誌フラッシュ・レポートの担当者、会員向けの案内文書等について、情報共有。</p> <p>② 2回目からのWeb 勉強会の日程と内容の確認 (2021年5月、6月、9月、12月)。</p> <p>2. 第1回目のWeb 勉強会でご講演いただく先生方への講演依頼状、講師派遣依頼状を作成し、事務局より郵送。</p> <p>3. 「イルシー」誌 No. 145 (2021年2月発行) に事務局との共著の栄養研究部会の研究会トピックス (題目: 「栄養と健康」をテーマとした新たな活動の紹介) が掲載された。</p>
	GRプロジェクト	特に進捗なし。
	茶類研究部会・茶情報分科会	特に進捗なし。
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition) “身体活動と栄養”プロジェクト	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®) ~元気で長生きのための運動・栄養プログラム~</p> <p>・横浜市社会福祉協議会「栄養・口腔ケア・運動で健康づくり」4回シリーズ。2月5日、8日、15日、22日 (会場: 荏田地域ケアプラザ)</p> <p>◇ その他</p> <p>The Association between Dietary Variety and Physical Frailty in Community-Dwelling Older Adults (Healthcare 2021, 9, 32. https://doi.org/10.3390/healthcare9010032) が共著で掲載された。</p>
	Project DIET (Dietary Improvement and Education with TAKE 10!®) “途上国栄養改善と栄養教育”プロジェクト	<p>◇ 栄養改善事業推進プラットフォーム (NJPPP) 委託事業</p> <p>・ミャンマープロジェクト: 1月15日、National Nutrition Centre のDr. Lwin 他と試験プロトコール、倫理審査に関しWeb 会議実施。その後クーデターによりプロジェクト自体が中断。</p> <p>・カンボジアプロジェクト: Ridgelinez (株) (富士通グループ) と ILSI との共同プロジェクトとしてのスマートフォンを使った栄養啓発システムの再検証が1月にスタート。結果は3月中旬までに取りまとめ予定。</p>
	CHP 全体	<p>・2月24日、CHP の新たな活動としてSDGs (Sustainable Development Goals) 貢献プラットフォームについて支部総会後の特別シンポジウムで提案。参画に関心のある各社との個別打ち合せを開始。5月頃の具体的立ち上げを目指す。</p>
国際協力委員会	BeSeTo Web 代替会議 (2020年12月2日) での日本を含む全アジア 6 支部 からの講演内容についてとりまとめ、「イルシー」誌掲載原稿を作成した。	

食品機能性研究会	AI 栄養・機能性研究部会	<p>1) 研究部会活動</p> <p>○ AI 栄養機能プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究実務担当者会議 (1/15, 2/19 Zoom)、月例会議 (1/29、2/26 Zoom) を開催した。研究テーマとして、1) 筋肉維持・増強に関する知見の収集、2) モニタリング技術の調査、3) 和食の演繹的検証の3つのテーマを選定し、各テーマリーダーを主体に活動を開始した。 ・2月より、健康長寿AI研究に関連する勉強会を開始した。 <p>第1回の基礎講座 (2/26 Zoom) は、医薬基盤・健康・栄養研究所の國澤純先生より、「健康に与える因子としての腸内環境の理解と社会実装に向けた取り組み」と題し、腸内細菌の最新情報、生活環境と腸内細菌叢に関する取り組みと成果について講演いただいた。</p> <p>○ AI デアトロフィ研究部門</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究会 (2/9 Zoom) を開催し、アスコルビン酸を題材に、代謝経路のイジングモデルの基本設計の検討を行い、代謝を2値化したモデルが提案された。 <p>2) 特別シンポジウム (2月24日 13:30-16:40 Zoom ウェビナー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「AI 栄養研究の目指す方向」と題し、各研究機関から、研究部会活動の紹介を行った。当日は、産官学から263名の参加があった。 ・講演内容として、「健康長寿社会実現のためのAI 栄養」では、医薬基盤・健康・栄養研究所の阿部圭一先生と荒木通啓先生、「AI デアトロフィの課題と将来展望」では、東北大学の戸田雅子先生、畠山望先生より、研究の目指す方向と研究の進捗の講演をいただいた。パネルディスカッションでは、安川拓次前理事長をモデレーターに、講演の先生方、宮澤陽夫先生、研究部会の参加企業の代表として、小林製薬株式会社の松嶋雄司様、森永製菓株式会社の山本貴之様の2名により、研究の目指す方向と「連携」をキーワードに、両研究機関との連携、アジアとの連携について議論した。 																		
情報委員会		<p>●栄養学レビュー 全体スケジュール [「ヨ」: 予定]</p> <p>編集会議 翻訳締 監修締 発行</p> <table border="1"> <tr> <td>・112号</td> <td>29-3</td> <td>11/13</td> <td>1/末</td> <td>2/末</td> <td>5/10ヨ</td> </tr> <tr> <td>・113号</td> <td>29-4</td> <td>2/12</td> <td>4/末ヨ</td> <td>5/末ヨ</td> <td>8/10ヨ</td> </tr> <tr> <td>・114号</td> <td>30-1</td> <td>5/10ヨ</td> <td>7/末ヨ</td> <td>8/末ヨ</td> <td>11/10ヨ</td> </tr> </table> <p>●通巻112号 29-3<2021年春> 対象誌: Nutrition Reviews 78(8)-78(10) ⇒11/13 編集会議 4報採択 ⇒ OUP 承認取得 (1/22) ⇒4論文とも翻訳原稿受領⇒4論文とも監修原稿受領済み ⇒5/10 発行予定</p> <p>●通巻113号 29-4<2021年夏> 対象誌: Nutrition Reviews 78(11)-79(1) 対象論文数: 21 ⇒2/12 編集会議にて5論文採択 ⇒5論文とも翻訳者・監修者決定 ⇒5論文とも翻訳依頼済み (翻訳〆切: 4月末日)</p>	・112号	29-3	11/13	1/末	2/末	5/10ヨ	・113号	29-4	2/12	4/末ヨ	5/末ヨ	8/10ヨ	・114号	30-1	5/10ヨ	7/末ヨ	8/末ヨ	11/10ヨ
・112号	29-3	11/13	1/末	2/末	5/10ヨ															
・113号	29-4	2/12	4/末ヨ	5/末ヨ	8/10ヨ															
・114号	30-1	5/10ヨ	7/末ヨ	8/末ヨ	11/10ヨ															

	<p>●通巻 114 号 30-1<2021 年秋 30 周年記念号> 対象誌：Nutrition Reviews 79(2)-79(4) <79(2)、79(3)発行済み></p> <p>●次回編集会議 5/10 (月) 16 時～ (Web) 議題：通巻 114 号 (30 周年記念号 2021 年 11 月発刊予定) 掲載論文選定 対象誌：Nutrition Reviews 79(5)-79(7)</p>
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・「イルシー」145 号発行 ・「イルシー」146 号編集 ・「イルシー」147、148、149、150 号 掲載内容検討・執筆依頼

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 1 回理事会が令和 3 年 2 月 4 日 (木) に開催された。</p> <p>確認事項 (令和 3 年通常総会決議事項)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2020 年事業活動報告及び決算報告案承認の件 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動の報告をし、決算の概要を資料に基づき説明した。 2. 2021 年事業活動報告及び収支予算案承認の件 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動の計画及び収支予算の概要を資料に基づき説明した。 <p>1、2 双方とも異議なく承認された。</p> <p>報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本部動向 事務局長から本部理事会における動向、報告について説明した。 2. 理事長選任 事務局長から安川理事長の辞任により、児島理事を新理事長として選任するため、次回理事会にて承認いただく旨説明した。 <p>承認、報告</p> <p>承認事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ILSI Japan 特別シンポジウム 通常総会の日午後に、I 部「AI 栄養研究の目指す方向」と題して 2 つの講演とパネルディスカッション、II 部「ILSI Japan の SDGs への貢献」と題して 5 つの講演とパネルディスカッションを予定していると説明し、承認された。 2. AAT プロジェクト 2020 年に引き続き、昭和薬科大の山崎先生の食品安全委員会の助成金を活用して ATT プロジェクトの研究課題を推進する提案をしたところ、特に異議なく承認された。 3. 食品リスク研究部会 翻訳本出版 元米国 FDA 職員が著者の“A Natural Mistake”「Natural Mistake」を翻訳して POD、e-book にて出版する提案があり、異議なく承認された。 4. バイオテクノロジー研究会 筑波大学遺伝子実験センターの共同利用・共同研究拠点としての評価をし、今後の活動を継続する要望書を ILSI Japan として提出する提案があり、特に異議なく承認された。 <p>報告</p> <p>2021 年 ILSI Japan 総会と理事会のスケジュールの確認</p>
総会	令和 3 年通常総会が 2 月 24 日 (水) 午前 10 時より Web (Zoom) に

	<p>て開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>第1号議案 2020年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。</p> <p>第2号議案 2021年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。</p> <p>2つの議案について共に質問はなかった。</p> <p>報告事項</p> <p>本部動向 以下の報告を事務局長から説明した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル組織再編の動き 2. グローバル・リサーチ・ワーキング・グループの設立 3. ILSI グローバルサイエンスシンポジウムの開催 <p>理事長選任</p> <p>安川理事長から児島理事長へ交代する旨報告した。</p>
事務局	味の素(株)から山口隆司氏が1月よりILSI Japan CHPへ出向となった。